

為替週間展望 = ドル円はレンジ相場で推移か

[4月13日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		4月6日～4月10日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	108.49	109.38(6)	108.21(9)	108.41	-0.14
ユーロ・ドル	1.0814	1.0952(9)	1.0769(6)	1.0940	+0.0139

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	19,498.50	+1678.31	日本10年債利回り	0.012	+0.020
ダウ平均株価	23,719.37	+2666.84	米10年債利回り	0.719	+0.124

<来週の主要経済統計等>

- 14日 中国3月貿易収支
米3月輸入物価指数
- 15日 米MBA住宅ローン申請件数
米3月小売売上高、米4月NY連銀製造業景気指数
米3月鉱工業生産・設備稼働率
カナダ銀行(BOC)政策金利
米2月対米証券投資
- 16日 豪3月雇用統計
独3月消費者物価指数確報値
スイス3月生産者・輸入価格
ユーロ圏2月鉱工業生産指数
カナダ2月製造業出荷
米4月フィラデルフィア連銀景況指数、米3月住宅着工・許可件数
米新規失業保険申請件数
- 17日 中国第1四半期国内総生産(GDP)
中国3月鉱工業生産指数、中国3月小売売上高
日本2月鉱工業生産指数確報値
ユーロ圏3月消費者物価指数確報値
米3月景気先行指数

【前回のレビュー】新型コロナウイルスの感染拡大は当面は続きそうで、リスク回避の円買いも出やすいとみられることから、ドル円は上値の重い展開となるとした。一時的に戻しても戻りは限定的となり、ドル売り円買いが加速すれば、105円の節目を試す可能性もあるとした。

【世界全体で感染者数と死者数の増大続く】

米ジョンズ・ホプキンス大学による集計では、世界全体での感染者数は150万人を超えており、死者数は9万人を超えている。米国での感染者数は45万人を超え、死者数は1万6000人超となり、スペインを上回り、イタリアに次ぐ第2位となった。

米ニューヨーク州では、8日に1日の死者数が799人となり、最多を記録している。7日にニューヨーク州のクオモ知事は、死者数は遅行指標だと述べ、入院患者や集中治療室の利用、人工呼吸器装着率の伸び鈍化は、感染防止のための人との距離を置く「ソーシャル・ディスタンス（社会的距離）」の効果が出ていることを示していると指摘している。

世界中で感染者数も死者数も増加傾向にあるものの、「感染がピークアウトしたとの

期待感などを背景に株価は上昇に転じている。NYダウは6～9日の4営業日で実に2666ドルもの大幅な上げを見せている。そうした中、ドル買いの動きは一服している。ドルインデックスは6日に100.93近辺まで上昇したものの、9日には99台前半まで下落している。ドル円は6日に109.38付近まで上昇した後に緩やかに下落しており、10日には108円台半ばで推移している。

原油価格も荒れた動きを見せており、株価や為替にも影響を与えている。2日と3日にニューヨーク原油は大きく上昇して、3日には一時29ドル台まで上昇して、28.34で引けた。サウジアラビアとロシアを仲介したトランプ米大統領が、両国が最大日量1500万バレルの減産をする可能性があることとOPECプラスが6日の週に緊急会合を開催して大規模な減産を協議すると報じられたことが材料視された。

その後、ニューヨーク原油は上値の重い動きとなり、9日には値を崩して、22.76ドルで引けた。OPECプラスは日量1000万バレルの減産で暫定合意したと報じられたものの、新型コロナウイルスの影響による需要減少を補いきれないとの見方が広がった。

米新規失業保険申請件数は、3月26日発表（3月15～21日分）は330.7万件（改定値）となり、これまでの20万件台からリーマンショックの時にすんなり水準まで急増した。翌週の4月2日発表（3月22日～28日分）では686.7万件（改定値）とさらに倍増している。4月9日発表（3月29日～4月4日）は660.6万件と引き続き高水準となった。わずか3週間で1600万件を超えており、短期間での急速な雇用情勢の悪化となっている。

新型コロナウイルスの影響により株式市場は大荒れなもの、為替市場はやや落ち着きを見せている。今後は再び大きく混乱する可能性はあるものの、株が乱高下しても、極端なリスク回避のドル買いや円買いに傾きにくくなっているとみられる。ドル円は明確な方向感には乏しく、レンジ相場で推移することとなりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、106.50～110.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、14日に米3月輸入物価指数、15日に米MBA住宅ローン申請件数、米3月小売売上高、米4月NY連銀製造業景気指数、米3月鉱工業生産・設備稼働率、米2月対米証券投資、16日に米4月フィラデルフィア連銀景況指数、米3月住宅着工・許可件数、米新規失業保険申請件数、17日に日本2月鉱工業生産指数確報値、米3月景気先行指数などがある。

【ユーロドルはドル買い一服で戻り歩調に】

ドル買いの動きが一服したこともあり、ユーロドルは6日に1.07台後半まで下落した後は上昇に転じている。ユーロはユーロ共同債の発行について慎重派のドイツ・オランダと、積極利用したいイタリア・スペイン・フランスなどとの対立がある。

そうした中、新型コロナウイルスの感染拡大による景気への悪影響への対策として、日本時間の10日未明にユーロ圏の財務相は5400億ユーロ（約64兆円）規模の経済対策を実施することで合意に達した。欧州安定メカニズム（ESM）などを活用する。新型コロナウイルスの感染拡大に対応するための景気対策などが期待される。

新型コロナウイルス関連報道に振り回される展開が継続することとなりそうだ。現在の戻り歩調が長くは継続しにくいとみられ3月27日の高値1.1147近辺までは戻しても、そこからさらに上昇するのは難しく、レンジ相場になるとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0670～1.1150ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、14日に中国3月貿易収支、15日にカナダ銀行（BOC）政策金利、16日に豪3月雇用統計、独3月消費者物価指数確報値、スイス3月生産者・輸入価格、ユーロ圏2月鉱工業生産指数、カナダ2月製造業出荷、17日に中国第1四半期国内総生産（GDP）、中国3月鉱工業生産指数、中国3月小売売上高、ユーロ圏3月消費者物価指数確報値などがある。

※投資や売買については御自身の判断をお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。